

(様式1)
令和元年度 目標達成計画

園所名 三木市立三木幼稚園

良いところ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

教育・保育目標
○近隣園や小学校・地域など様々な人とのかかわりを通して人間関係の基礎や主体的に関わる力を育む。

【目標達成計画】

| 項目 | 園の現状や取組、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取組内容 | 成果 | 評価 |
|--------------|---------------------------|---|---|--|--|
| 共通課題 | ・お散歩等園外での保育活動における安全対策について | ・園外へ行く時の安全な道路確認を徹底し、ルートを共通理解する。 ・道路の歩き方や道の横断の仕方等、紙芝居や交通教室などで交通ルールを理解し、突然の事故に備え安全意識を高める。 | ・園外に出かける際のルートマップを作成し、車両があまり通らない安全な道路をルートとして採用する。 ・交通安全教室で道路を歩く時のきまりについて学習したり園外保育の前に紙芝居などを読み聞かせたりして交通ルールの確認を行う。 | ・教師同士でルートを確認し、マップを作成した事で、子どもにも事前に注意したり提示したりすることができた。 ・保育の中でも、子どもと共に散歩マップを作成した事で、子どもたちが主体的に安全について考えながらルートを選択し、意識の定着が図れた。 | ・子どもと横断歩道を歩いたり、狭い道を1列で歩く等しながら、危険箇所を一緒に確認している。 ・「お散歩マップ」を子どもと相談しながら作成し、交流の際には事前に他園児にもマップを渡し、実際に活用してもらっている。子どもが自ら考え行動していることが、自信につながっている。 |
| 良いところ 自慢！ | 保育内容面 | ・少人数をプラス要素として捉え、様々な人とのかかわる機会が数多くある。 ・一人ひとりが主体となって考えを発表したり、アイデアを発信・共有したりできる。 | ・交流活動計画を作成し、小学校・地域・未就園児・近隣園所との交流で子ども同士のかかわりが深まるよう計画する。(運動会・お祭・発表会等) ・子ども同士で相談する機会を大切にし、支援が必要な時は状況に応じ教師が橋渡ししながら思いを共有する。 | ・交流の中に、運動会の種目の伝授や道案内等子どもたちから発信した活動を取り入れたことで交流の友だちと主体的にかかわることができた。 ・自らホワイトボードを使って相談したり、遊びの中で子ども同士が集まって伝え合ったりする姿が見られた。 | ・少人数を生かし、大きな行事ばかりではなく、平素の拭き掃除や掃き掃除などにおいても、子どもたちの発達に繋がったり、一人ひとりが主役となったりできるように配慮されている。また、濃密な子ども同士の関わりの中で、子どもの自発性や主体性が発揮できるよう取り組みがなされている。 |
| | 管理運営面 | ・通園バスを利用して、近隣園と安全に交流し、定期的な交流へとつなげることができる。 ・職員の連携が取りやすく一人ひとりの子ども理解が共有でき、子どもの姿も保護者に詳 | ・公共交通機関や市の契約バス等を組み合わせ、子どもたちが安全に連携交流できる場を計画する。 ・ホームページや一人ひとりの連絡帳を活用して子どもたちの成長を伝える。 | ・市の契約バスを利用し、移動の安全確保を行うとともに、交流時間をたくさん確保できるようにする。また電車なども利用し、地域とのつながりを大切にする。 ・ホームページを区分分けし、活動内容を分かりやすく伝える。また、連絡帳に写真を貼りコメントしながら | ・各近隣園所との交流に市の契約バスを利用したことで、運動会ごっこや大宮の宮参り等の長時間交流も可能となった。また、バスの運転手さんへお手紙やあいさつ等、感謝の気持ちが高まった。 ・随時、連絡帳やホームページで子どもの成長を発信したことで、園に対しての理解が深まり、親子の会話が広がった。 |
| ここを 改善！ | 保育内容面 | ・近隣の良さを生かして、小学校への接続についてさらなる充実を目指した連携や研修が必要である。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、子どもの活動からの育ちを明確化する。 | ・小学校のカリキュラムの中から連携出来る教科や内容を教師同士で把握し双方の成長を願った交流をすすめる。 ・子どもたちの遊びをよく観察しそれぞれの育ちを探る。 | ・小学校との交流の中で、教師間で情報交換を行い、就学前の課題や願いを聞き保育の中に取り入れる。 ・その日の出来事や個々の頑張りや育ちをドキュメントにまとめて、可視化することで様々な人とのかかわりを心に留めてい | ・年間交流計画を作成した事で、より段階的な交流となり、小学生の優しさにふれた子どもたちが、小学校への関心や期待を膨らませることが出来た。 ・今までの遊びや活動の中で子どもたちが生きていく為の意欲や粘り、向上心等の自信に繋がった。 |
| | 管理運営面 | ・職員数が去年の半分に減少した為、不審者等の災害に直面した時の人員不足が懸念される。 ・交流に出かける機会が増えたことで、保育室や園庭の管理が行き届かない。 | ・施設内の構造を利用して、子どもの安全地帯の設定・最短ルートの共通理解をする。 ・防草シートの活用や子どもや保護者と一緒に清掃活動の場を持ち「みんなできれいにすると気持ち良い」という雰囲気作りをする。 | ・登園後、駐車場側の扉の施錠及び遊戯室を施錠することで、安全地帯を確保を日々、継続して行う。 ・日々のお掃除活動の中で、草引きや落ち葉集めなど、「みんなできれいにすると気持ち良い！」という雰囲気作りを継続していく。 | ・毎月の安全チェックや安全対策の見直し、防犯カメラの設置等により、子どもたちの安全を確保した保育活動が行えた。 ・親子で愛園作業を行うなど、保護者の方も協力し、みんなで園をきれいに、そして大切にしようとする気持ちを育むことができた。 |